

## 令和元年度 腰痛予防対策介護研修開催要綱

### 1. 目的

腰痛予防対策推進福祉施設（以下推進施設という）における腰痛予防対策の実際を学び、自施設での腰痛予防対策の促進に繋げる。

### 2. 目標

- (1) 推進施設での組織的な取組みについて理解する。
- (2) 利用者の能力を積極的に活用する介助方法を学ぶ。
- (3) 福祉用具を活用した基本的介助の知識・技術の周知方法について習得する。
- (4) 利用者に合わせて介助方法の選択・介助技術の周知方法について習得する。

### 3. 実施主体 富山県福祉カレッジ 介護実習・普及センター

### 4. 開催日時及び開催施設

開催日時：各推進施設が指定している開催日時（施設によって開催時間が異なることがあります。）

研修コース：1日コース（9:00～17:00）と半日コース（13:30～17:00）があり

半日コースは推進施設からの受講者が対象

開催施設：平成26年度～平成30年度に推進施設の指定を受けた施設

開催施設 (推進施設)	所在	開催日	
		1日コース	半日コース
		9:00～17:00	13:30～17:00
特別養護老人ホーム ソレイユ	富山市下堀 50-6	11月6日(水) 11日(月) 13日(水)	11月27日(水)
特別養護老人ホーム 福寿園	南砺市松原 678-1	11月20日(水) 27日(水) 12月3日(火)	12月10日(火)
特別養護老人ホーム 越野荘	黒部市若栗 2111	11月8日(金) 15日(金) 22日(金)	11月1日(金)
特別養護老人ホーム ほのぼの苑	氷見市加納 495-1	12月11日(水)	11月13日(水)
特別養護老人ホーム だいが苑	高岡市醍醐 1257	9:00～16:00 11月6日(水) 13日(水) 27日(水)	11月20日(水)
特別養護老人ホーム あんの里	魚津市仏田 3468	11月13日(水) 27日(水) 12月11日(水)	12月3日(火)
介護老人保健施設 城端うらら	南砺市理休 270	11月6日(水) 27日(水)	12月4日(水)
介護老人保健施設 みどり苑	富山市秋ヶ島 146-1	11月27日(水)	11月20日(水)
特別養護老人ホーム 七美ことぶき苑	射水市七美 891	11月27日(水) 12月11日(水) 18日(水)	11月20日(水)
特別養護老人ホーム つまま園	氷見市阿尾 410	11月13日(水) 14日(木) 27日(水)	11月6日(水)

※ 研修施設における腰痛予防対策取組みの特徴

研修施設	取組み年度	福祉用具設置状況※1	腰痛予防対策取組みの特徴
特別養護老人ホームソレイユ	平成26年度	①②③ ⑤ラックス, フレックスボード, フルトリライニング車椅子, フルトリライニング車椅子, 他車椅子, 昇降式介護浴槽, 据置型天井走行リフト(9月設置)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の自立支援と職員の腰痛予防のための内部研修を今年度6回企画している。また、委員は福祉用具の使用方法をチェックシートを用いて確認している。</li> <li>・福祉用具を安全に使用するため、福祉用具と機器の整備・点検・調整を定期的に行っている。</li> <li>・利用者の生活の質を高めるために多職種が連携し適宜カンファレンスを行い、移乗・移動プランの作成に努めている。</li> </ul>
特別養護老人ホーム福寿園	平成26年度	①②③④ ⑤イージーロール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の目標は「福祉用具を活用した安全・安心・安楽な介助方法を周知し、実践する。」としている。</li> <li>・講師を招いての研修会、職員による勉強会・試験等によって、安全・安心・安楽な介助方法を習得できるように努めている。</li> </ul>
特別養護老人ホーム越野荘	平成27年度	①②③ ⑤壁付リフト, イージーロール, フレックスボード	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会を中心とした腰痛予防対策の継続的な取り組み(実技研修・アンケート調査など)</li> <li>・多職種、指導者メンバーを中心に、福祉用具を活用したケアプランの作成(移乗動作など)</li> </ul>
特別養護老人ホームほのぼの苑	平成27年度	①②③ ⑤ラックス等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉用具が充実(スライディングシートしている42枚・ボード28枚・リフト4台)している。</li> <li>・利用者にあった福祉用具を適宜に選択し対応している。</li> <li>・リフト操作試験を2カ月に1回実施し、操作技術の確認を行っている。</li> </ul>
特別養護老人ホームだいが苑	平成28年度	①②③ ⑤ラックス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度より腰痛予防推進福祉施設として認定された。活動は4年目になり、少しずつ腰痛の意識が施設に浸透してきている。「ノリフティングと腰痛予防対策を継続し、利用者の尊厳を守り根拠に基づいて利用者・職員ともに安心・安楽な介護を推進する」事を目標に日々取り組んでいる。</li> <li>・入居者にとって必要な福祉用具は積極的にデモや評価を行い、職員が身につける知識や技術は計画を立てて研修会や勉強会を年10回以上は行い周知徹底している。また、福祉用具のアセスメントを3か月に1回、見直しをかけ、入居者の状態に合わせて支援を行っている。</li> <li>・常に現状に満足せずに一歩前を意識することを実践できるように取り組んでいる。</li> </ul>
特別養護老人ホームあんの里	平成28年度	①② ⑤据置式リフト, 移乗回転盤, ロールボード	<ul style="list-style-type: none"> <li>・腰痛予防推進福祉施設の指定を受け、4年目になる。</li> <li>・現場職員の腰痛保有者数半減を目指し、5か年計画(令和2年度末まで)を立て、ハード面では腰痛予防に関わる各福祉用具を導入し、それと平行して福祉用具別の研修やチェック体制、また各ご利用者の実用的な能力に適した移乗方法を評価するため、フローチャートを使ったアセスメントシートの使用等、ソフト面からのアプローチも図っている。</li> </ul>

特別養護老人ホーム あんどの里	平成 28 年度		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベッド間移乗時に本格的にリフターを導入してから1年足らずということもあり、排泄介助時や入浴介助時等、まだ腰に負担のかかる介護場面が残存している現状がある。</li> <li>・5か年計画後も、残存している課題に対しハード面、ソフト面の双方から一つ一つの課題に取り組んでいく予定である。</li> </ul>
介護老人保健施設 城端うらら	平成 29 年度	①②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボードとシートを使った腰痛予防の教育に力を入れている。施設内の全体研修だけではなく勤務時間内に行う機会教育等もやっている。</li> <li>・今年度から、施設内の行事で来客した利用者家族や地域の人に腰痛予防を体験してもらい、地域への腰痛予防の取組みの周知もやっている。</li> </ul>
介護老人保健施設 みどり苑	平成 29 年度	①②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・腰痛予防対策推進福祉施設として3年目を迎え、スライディングシート・ボードの活用をし、安全で負担の少ない介護を目指している。</li> <li>・昨年度、アセスメントシートを作成し、今年度より移乗動作に介助が必要な利用者に対して活用している。スタッフで共有し、腰痛予防の意識化をすすめている。</li> </ul>
特別養護老人ホーム 七美ことぶき苑	平成 30 年度	①②③ ⑤天井走行リフト、ラック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上田教授を定期的に招聘し腰痛予防の基礎である身体の使い方から、所作、それを意識した福祉用具の活用を行っている。</li> <li>・リハ職により特養の全利用者のアセスメントを行い、アセスメントに基づいた福祉用具の選定と導入を随時進めている。</li> <li>・腰痛予防プロジェクト（通称 YPJ）を組織し、腰痛予防知識の啓発、福祉用具の使用方法的の周知、職員教育の為の施設内実技試験、活動内容周知の為の広報活動、福祉用具の管理・メンテナンスを行っている。</li> </ul>
特別養護老人ホーム つまま園	平成 30 年度	①②③④ ⑤フレックスボード、ラック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の自立支援と職員の腰痛予防の2本柱にアセスメントや介助方法の見直しを行っている。</li> <li>・定期的にフローチャートを用いて介護方法の統一を図っている。</li> <li>・安全に福祉用具を使用できているかは、福祉用具毎にチェックリストを作成し、自己評価・他者評価を行っている。</li> </ul>

※1 ①スライディングシート ②スライディングボード ③床走行リフト ④スタンディングリフト  
⑤他（自由記載） ①～⑤が保有している福祉用具）

## 5. 対象者及び受講条件

- (1) 「腰痛予防研修」や「リフトリーダー養成研修」等を修了している理学療法士、作業療法士、介護福祉士、看護師等を対象とする。
- (2) 研修コースは「1日コース」の受講とする。  
推進施設からの受講希望者は「半日コース」とする。
- (3) 研修先の受入れ人数を1日2～3名とするため、同一施設からの受講希望者は1～2名とする。

## 6. 定 員 40名（1施設上限9名まで）とする。

## 7. 研修内容及び研修時間

### (1) 1日コース（9：00～17：00）・・例

項 目	内 容	時間
オリエンテーション	①施設の概要について ②腰痛予防対策推進事業について ③施設における腰痛予防対策推進の経緯・状況について	1 時間
介護実践	①介護マニュアルについて説明 ②移動・移乗の基本的介助技術の実技指導 日頃の振り返り等 ③課題ケース（脳卒中の片麻痺のある利用者等）について 指導 ・アセスメントからケアプラン作成について ・移動・移乗の介助技術の実技指導、情報共有について	4 時間
まとめ	①カンファレンス ・ケアプランの作成過程について指導 ・意見交換 ・研修生は研修記録（様式1）を記載し、自己の課題を 明確にする。	2 時間

### (2) 半日コース（13：30～17：00）・・例

項 目	内 容	時間
オリエンテーション	①施設の概要について ②腰痛予防対策推進事業について ③施設における腰痛予防対策推進の経緯・状況について	1 時間
介護実践紹介	①介護マニュアルについて説明 ②課題ケース（脳卒中の片麻痺のある利用者等）について アセスメントからケアプラン作成までの説明	1.5 時間
まとめ	①カンファレンスを開催 指導者と研修生間の意見交換 ・研修生は研修記録（様式1）を記載し、自己の課題を明確にする。	1 時間

## 8. 経 費

受講料は無料、開催施設までの交通費は自己負担とする。

## 9. 申込方法

別紙1「申込書」に記入し、別紙2「研修施設への質問事項等」と一緒に9月24日（火）までに当センターへFAXする。

## 10. その他

(1) 受講者には10月4日（金）までに施設長あてに受講決定通知を送付する。

(2) 研修記録等の提出について

- ・研修生は、研修記録（様式1）を記載し、研修施設の指導者に提出する。
- ・研修施設の指導者は、研修生受入れ終了後2週間以内に、研修報告書（様式2）を記載し、研修記録（様式1）と併せて、介護実習・普及センターに提出する。

(3) 個人情報の取扱いについて

- ・指導者は推進施設における個人情報の取扱いを研修生に説明し、守秘義務の徹底を図る。

(4) 安全対策

①事故防止

- ・利用者の移動・移乗の介助は、指導者と共に実施する。

- ・利用者の転倒や物損等の事故については、当センターで加入する保険で対応する。(福祉サービス総合補償)

②事故への対応

- ・事故が発生した時は、指導者は速やかに、介護実習・普及センター (Tel 076-432-6305) へ連絡する。

(5) 健康管理

- ・研修生はインフルエンザ、ノロウイルス等の感染症の罹患及び疑いがある場合には、研修を欠席する。

(6) 研修生の服装・履物等

- ・研修生は職場で着用している服装・履物を使用する。

[腰痛予防対策推進福祉施設一覧]

平成 25 年度	特別養護老人ホーム きらら
	特別養護老人ホーム ささづ苑
平成 26 年度	特別養護老人ホーム ソレイユ
	特別養護老人ホーム 福寿園
平成 27 年度	特別養護老人ホーム 越野荘
	特別養護老人ホーム ほのぼの苑
平成 28 年度	特別養護老人ホーム だいが苑
	特別養護老人ホーム あんどの里
平成 29 年度	介護老人保健施設 城端うらら
	介護老人保健施設 みどり苑
平成 30 年度	特別養護老人ホーム 七美ことぶき苑
	特別養護老人ホーム つまま園